

沖縄の文藝

第17号 2012・5 URASOE BUNGEI

特別企画

対談 沖縄思想が対応する現実問題

宮城能彦 vs 星 雅彦

**時事
評論**

ケビン・メア問題・田中聡前防衛局長問題
福地曠昭・津嘉山武史・水口義朗

論文

上原正稔 ウチナー口の秘密の
扉が開かれた - その鍵は梵語だ -

対談

沖縄思想が対応する現実問題



参加者

みや 宮 ぼし 星
ぎ 城
よし 能 まさ 雅
ひこ 彦 (沖縄大学教授・社会学)
ひこ 彦 (詩人・コーディネーター)

なぜ人が火を恐がらなくなったのかはわからないが、(研究者の所説があるかもしれないが)恐がらなくなった直後に火の力を知ったと思われる。

夜の焚火は猛獣を遠ざけ、人を集める。

猛獣(時には遅よく食物や毛皮になったのかもしれないが)に襲われる不安や警戒心がなくなり、エネルギーを思考や仲間とのコミュニケーションに「回せる」ようになる。小さな共同体、言葉、知恵などが発達する。

焼いた獲物の肉は消化がよく、体を温め、食事時間を短縮し、保存もきき、ますます時間が有効に使えるようになっただろう。

肉を煮炊きする「道具」や「調理法」は芸術(創造)の始まりになり、創造に動しむ中からますます脳は進化しただろう。

脳の進化は飛躍的に生活を改善させ、急速に集落、村、町、都市を形成するようになったと考えられる。

農業が文明を発祥させたというが、猛獣を恐れなくなったから人々は、時間のかかる農業(栽培)もできるようになったといえるのではないだろうか。

(了)

反復論と神國思想

星 今日タイトルの「神國思想」が対応する現実問題」というふうには、ちよつとどこでもないタイトルではあるんですが、正面からぶつかって自分たちの考えを出した方が理解しやすいかと思つています。一対一の対談ですから、自分をまずさらけ出して、そこからいろんな解釈も出てくると思いますが、ひとつよろしくお願ひします。

宮城 よろしくお願ひします。

星 宮城先生は専門はなんでしたっけ。

宮城 僕は社会学です。

星 ということは、このタイトルとびつたりだね。

宮城 そうなくもないですが……

星 「神國思想」って指定しましたけど、どうですか。「神國思想」にはどういふ原点があると解釈しますか。それは右よりなのか、左よりなのか。一概には言ひ切れないですよ。

宮城 そうですね、それ自体が今すこ

く曖昧になつたままに個別具体的な議論になつちやつてるところが問題ではないかと思ひます。

星 左翼指導者の人が、好んで使う言葉かもしれない。自分たちの思想が神國思想を代表するといふふうに通つてるふしがありますね。しかし、この点で彼らだけが独占できるものでもないし、この神國思想が対応するというのは、まず現実の問題として我々がいろんなことを考える中で、まず一番に、自分に就ね返つてくるものって何でしょう。

宮城 思想に限らず「神國的」といつたときに、僕らは何を見て神國的といつているのかというのには、それはもちろんだいな昔から、伊波普猷の時代から議論があるわけですけど伊波はともかく、最近はいわゆる「本土」、日本だけを見てそれに対する神國といつていような気がします。思想に限らず、「神國的」といつたときに、逆に偏狭なものになつてしまつていふ。そのへんが僕はまず引つかります。

宮城 僕は社会学です。

星 今日タイトルの「神國思想」が対応する現実問題」というふうには、ちよつとどこでもないタイトルではあるんですが、正面からぶつかって自分たちの考えを出した方が理解しやすいかと思つています。一対一の対談ですから、自分をまずさらけ出して、そこからいろんな解釈も出てくると思いますが、ひとつよろしくお願ひします。

宮城 よろしくお願ひします。

星 宮城先生は専門はなんでしたっけ。

宮城 僕は社会学です。

星 ということは、このタイトルとびつたりだね。

宮城 そうなくもないですが……

星 「神國思想」って指定しましたけど、どうですか。「神國思想」にはどういふ原点があると解釈しますか。それは右よりなのか、左よりなのか。一概には言ひ切れないですよ。

宮城 そうですね、それ自体が今すこ

では今でも正月には国旗を掲げてるんです。あれをどう解釈しますか。

宮城 あれが普通ですよ。僕は調査でよくやんばるに行きますけれど、やんばるでも正月に国旗掲げる家があります。例えば親友会の新年会とか。トウシビー祝いで日丸が掲げられます。だから表向きというか、メインストリートでは掲げられなくても、実は復讐前から変わつてない人たちがいるのもかなりあると思ふんです。

星 スポーツの国際的なオリンピック等でもそうだけど、その国の国旗というのが非常に意味があるんですね。日本の中でも自分たちは完全なる日本人かどうかという考え方もあるけれど、やっぱり日丸に対しては敬意を払いたいという気持ちがありますよね。ところが、さっきもおつちやつたように教職員組合などで、国旗を掲げるといふことへの拒否反応と同じく、君が代は歌わないといふような状況もあるんですね。これは戦前の学校教育とは全く違います。この変化と

星 一九七〇年の頃は日本復讐するだろうという、そういう予測もあつたけど、また、日本全体で「神國を返せ」といふ歌を歌つてね、全国的な盛り上がりもあつたんですね。そして神國の知識人たちが大いに発言する機会があり、原稿依頼も随分ありましたね。「神國特集」といふかたちで、一種の神國ブームだったと思ひます。もてはやされた時代だった。

宮城 その頃僕まだ小学生ですから細かなことは理解できませんでした。大学生以降に文献で読んで知つたことがほとんどです。ただ、空気が感じてました。

星 「神國を返せ」の歌も、その運動も僕らは見てますし、日丸の旗を宿題でつくつてきて、復讐行進で振るというふうな時代の小学生でしたから。

星 日丸といふは、不思議なことに、あれは正月だったかな、とにかくあつちこちの家で国旗掲げられているんですね。これは珍しいなと思つてね。しかし、そのあと復讐してから二、三年経つてだんだんいろんな否定的なことが言われるようになった。

宮城 一言でいうと、よく分からないとしか言えないです。復讐に反対するといふ政治的な発言ではないとおつちやるんですね。直ちに独立せよといふわけでもない。これが政治的な発言でないならば、では何なんだろうということになる。これはアイデンティティの問題なのか。でもアイデンティティの問題にするならば、かなり違う中身になるはずですよ。

星 精神的なものを指しているらしいが、言つていふことはそれほど難解ではない。ただ根拠が見えてこないで、意味不明になつていふ感じがします。

宮城 こう言つたら失礼ですけど、わざとその辺りをねらつてののかなという感じがします。必ずしも望んだかたちではなかつた。復讐が、それはたぶん



います。私も「日本に勝ることが神髓を解放する唯一絶対の考え」だったとは思いません。しかし、我々県民はあの時確かに「復讐」を主体的に選択した。選択した以上「本土」に否と言うだけでなく、自らの責任をも問うことが必要ではないでしょうか。

星 おそらくその反復論に対するまた別な反論が出たときのことを考えているようだ。要するに独立論と重ね合わせる。反復論というものを裁断するならば、そういう人は思考力が貧弱だと言えるところになる。もっと別な言い方をすると、そこで写実的なレトリックが存在するんだと言うかもしれない。まず単純にといったも率直に考えてみると、反復論というのは復讐に対して反対だということですよ。反日感情を背景に……

宮城 というふうには聞かえないですけれど、新川さんは「復讐」ではなく「併合」とおっしゃるけれど、それこそ「政治的」そのものではないでしょうか。星 それこそが政治的であるに違いない。

民のほとんどの人がそう思っています。復讐のときの挨拶で屋良知事も「必ずしも望んだかたちではない」と明言なさいましたけれど、それは県民みんなが思っていることです。ただ、必ずしも望んだかたちではないということ、なぜそれに「反復論」というタイトルをわざわざつけるのか、どうもよく分からない。星 あの「反復論」のスタートは復讐運動に対するアンチだったという。そういう気配は十分にあったようです。ただ、これを肉づけするというか、理論構築していったとき、新川明に言わせると、反復論は政治的な発言ではないとはつきり言うことによつて、ややこしい政治性から脱皮したポーズを提示することができると、そこで独立を主張するわけでもない、じゃあ何だろうということになる。彼の言っていることは、理解しにくいけど精神的なものを充実させているようだ。あるいは崇高な思想を打ち出したと、世間に宣言しているのかもしれない。

宮城 復讐に対するアンチテーゼではある。だけどアンチテーゼでしかないと言ったら、たぶん怒られると思うんですが、でもそれにしか見えないんです。復讐を手放して喜んではいけない、というのはそれはみんなそうなんです。復讐運動とか、あるいは復讐後とか、反省すべきはもちろんたくさんあるわけですけども、なぜそれにわざわざ「反」を付けないといけないのか。復讐運動や復讐後の「見直し」は「反」を付けないでも十分に論じることができると、むしろ「反」を付けることによるイメージの影響の方が、本質を見えなくしてしまうと私は思

は謝花昇の自由民権運動にからめて、さすがに難解な理論展開だった気がする。ところが昨今の新聞紙上では、崎浜慎とかいう文学青年と往復書簡の形で新川明と意見交換している。しかしなんで今頃ほとんど死語に近い言葉（「反復論」）を持ち出したのかなと思議に思った。NHK「きんくろ」対談の企画らしいけれど、復讐四〇周年に引つ掛けてのキャンペーンにちがいない。タイムズ紙上でかなり大きく、上・中・下で、あれを読むと、古い回想を交えた教訓的な面もある。しかし自分は、もう廃れてしまったという立場ではないと言いたいふうですね。また、聞いて神髓芸能人、お笑いさん二人に、新川明は何やら理解を求めていた。お笑いさんも一人前に背伸びして同調の発言をしていたが、なぜか感銘は薄かった。彼は自分の存在はまだ毅然としていて、神髓を代表する思想であると告げているようでした。その理論はそれとなく空転している感じでもあり、いささかエレジーを歌っているようでもある。また、

未来の神髓人像を探っているようにも読めたが……

宮城 確かにですね、一見そういうふうに見えないわけでもないんですけど、例えはですね、ちょうど僕らの世代がざりざりそうだったんですけど、やっぱりアイデンティティの模索みたいなのがありました。我々は日本人なのか、神髓人なのか。神髓とか琉球とか、そういう民族というのが成り立つのか、そういう藤が例えば七〇年代の神髓の若者には決定的にあった。それがだんだんなくなってきたと思つた。ところが最近の若い人に、「自分は日本人というより神髓人と言いたい」という人が増えてるんです。星 古代は原日本人であつても、今は神髓人である……

宮城 日本人というよりも神髓人と言いたい。星 ということは、より本物に近いというか、自分の生まれ故郷に立脚して……宮城 よくいえばそうなんですけれど、ただ、かつての復讐前後の若者のアイデ

ンティティの葛藤というのは日本か神綱かですよね。その葛藤ですよ。今の若い人たちがそういう葛藤してるかというのと、私にはそれは見えなくて、葛藤してないですね。

星 葛藤してないですか。まずこれまでのコンプレックスがないですよ。我々の世代まではあったんです。ヤマトに対するいろんな問題でインフエリオリティ・コンプレックスというの、差別されてるといふような意識ね。これが今の若者たちには見られないし、関係ない立場にいるようだ。

宮城 そう、その頃のようなコンプレックスはないですね。

星 それを認識しないということだとすると、思想家の人たちはどう見るのか別な意見があると思う。また復讐という二二が神綱解釈であるところも、絶対的ではないだろうし、当然選択は他にもある。また否定的でも同化がポイントになっている。同化志向は「愚」なのからためてもう一度考えてみたいですね。

宮城 そうですね。だから彼らが「日本人というよりも神綱人と言いたい」というのは、実は「日本人」であることを否定して「神綱人」と言っているのではなく、むしろ逆に「日本人」であることに疑いをもつ必要がなくなったからだと思います。悪く言えば、そういう主張を許してくれる日本という国への甘えと言えなくもない。しかし同時に、「日本の中にもかなり変わった歴史を持った神綱人というのがあるんだ」と主張ができてくる。自分たちの歴史や文化に。

星 自信をいつの間にか手に入れたわけですね。

宮城 はい。だから一見、同じように「日本人というよりも神綱人と言いたい」といふ言い方は、一見、昔も今も同じように見えるけど、実際は全く違うものだと思います。だけど、そういう彼らが反復論みたいなのを言うと、かなり分かったような気になるところがあると思うんです。

星 いや、違和感があるらしいですよ。復讐して本土並みになったが基地問題だけは残っている中で……

宮城 違和感と同時に、「自分たちはたまたま日本人じゃないよ」「復讐を全面肯定したわけでも、米軍基地の存在を肯定しているわけでもなくて、反対なんだよ。」すなわち「本土の人とは違うよ」というところで、「反復論」に違和感を感じつつも納得するところがある。そんな感じではないでしょうか。

星 そこでもう一つ、本島のウチナーグチ(神綱語)。離島のシマクトゥバが奨励されている。このウチナーグチについては、県文化協会主催での「しまくとぅば語やびら」大会というウチナーグチの発表会があるんですよ。その地域地域で言葉が違うので、これを大事にしようということだから、方言の標準語みたいなものを考えているわけではないんですよ。ただね、宮古も分らない言葉をつかっていると一般にいうんだけど、宮古の人たちがしゃべってるものを文字で書くことあ

る程度は分かるんですよ。

もう一つは、発音の問題だが、神綱の言葉の根底にあるもの。それは日本語の古語と相通するんですよ。ということはずでに多くいろいろ指摘されているしね。言われてるんですけど、それはあまり深く分析されてなかったんだけど、この頃、文法や語彙の国境での相違も進められていたようだ。文法的に神綱語は中国語とは全く違うということも、自分たちの生活習慣は中国的な要素が強いけど、本質的には違う。そのへんのことをもう少し補強しておっしゃっていただけるといいですね。

今、反復論を再燃させているような新聞の取り上げ方、嘘も方便でもう一つ別な面からいいますと、琉球新報、神綱タイムスの新聞の方針は、非常に異世界の新聞と違うのは、キャンベーンが強いんですよ。キャンベーンを打ち出すと効果があるということが最近強く感じ始めたんじゃないかな。

宮城 すごくいいですよ。

星 すごく。これは私が東京に行ってる程度は分かるんですよ。いろいろんな人たちが話し合ってたんだけど、神綱はすごくいいねと言わね。それともう一つは、非常に惨めな生活をやっているかと思つたら、神綱は東京と同じじゃないかって、東京よりもいいかもじれんよというの、冗談で言ったんですけど、この六〇年間、戦後からだんだん生活が良くなってきて、中身が平和そのもので、こういう充実した中であるというところをみんなよく知ってると思いますよ。ところが神綱の怒りはすべて本物の怒りなのかと問われている。どうなのかと疑問に思うときがある。

宮城 本場に、神綱の新聞はこの一〇年、キャンベーンのためのペーパーなのかという感じがしますよね。ものすごく、異民がある方向に乗り立てるような言葉がズラッと並んで、非常に心配してしまいます。神綱の新聞はこのままで大丈夫だろうかと思うときがあります。

他者の捏造だけが目立つ

星 二年前に起きたケビン・メア事件ね。あれは調べれば調べるほど彼の言行は神綱の人たちに対する忠告みたいなものに愛護してくるんですよ。ところが、あれの裏にいる反米的なそういう政治家、思想家たちのグループが深く関係していた。あの人がメアを庇るための策謀を企てていたことは疑う余地がない。それなのに神綱の新聞が、鬼みみたいな悪い奴に仕立て上げて糾弾した。すると、神綱の新聞はそのことを、あれだけ数カ月間も、彼のことをくそみそに批判して後には知らん顔です。

それと、今度の例の田中前防衛局長のオフレコ発言も、実際には最初から計画的にすっぱぬいた事件のようだ。今では不明なまま、彼の発言が「犯される」という言葉をつかたことになつていっているんだけど、本人は否定している。記者のルール違反ですね。百歩譲って、「犯される」という言葉をつかたことでもあんなに百人近い神綱の女性たちが集まって、「許せな〜い」と叫んで

いる記事を見ると、どうやら怒りの質が非常に低いように思われる。そして極端な言い方だけと漫画チックにも思われた。あれは本当のブライドというものではない。安直な発言をしたからといってあんなふうに騒ぐのが神輿の新聞か、と問われている。どうなんでしょう？

宮城 そうですよ、まさに、しかも「女たちは許さないぞ」と言ってる人たちは、普段「ジェンダー」とか言ってるわけですよ。男らしさ女らしさは後天的につくられたものであってというような話をしている人たちが、なんでこんな時だけジェンダー論を捨てちゃうのかなと。もちろん、現実にはジェンダー・フリーではないから「女として」怒るのは当然だと言われればそうなんでしょう。だけど、問題は、そのニュースを見た多くの県民がどう思うかです。いつまで昔のバターンでやるのかなって思ってしまった。騒ぐこと自体が目的なような印象を与えてしまったと思うのです。本当はそうではないと思うのですが、「失言」

をまちかまえているような印象を与えてしまっているのが残念です。

星 二年ほど前に、神輿県民総決起集会が開かれたとき、その主催者発表が一万だった。専門家が綿密に人数を数えてみたら三万人以下約二万五千人という解答が出た。この三万人以下は多くのメディアが認めていたはずなのに、裁判記録では一万だと出ていた。一事が万事で、不信感が色濃く残っている。表向きは立派だが、公明正大に真実を追求したとは言えないのではないかと。この問題をもう一つ見方を変えてみると、神輿の新聞のキャンペーンが国を動かすようなところにきているように見受けられる。その味を覚えて、つぎつぎ策謀するメディアが存在する。これは良いか悪いかは別として、そこには自己の捏造を許容し、他者の捏造を非難する。この動行は罷合を呈して非常に上げつけないものになってしまうようだ。

宮城 僕は逆に、本当に神輿の新聞のために心配してらんです。別に新聞を批

判したいとかではなくて、長い目で見て心配してるのは、オオカミ少年のような気がするからです。もうずっと「オオカミが来たぞー」と言ってるわけですよ。一万というのは要は大げさに言ってるわけですよ。オオカミが来たぞー、来たぞー」と言ってる村人は「大変だ」と言ってる集まってるんですけど、いざその県民が結集して何かやらないといかない時にはもう誰も集まらなくなるんじゃないか。今、あまりにも小さなところか、あまり本質でないところではないか、あまり大事な事にして、それで動員できているというので味しめちゃって、そのうちに、また神輿の新聞が小さなことを大騒ぎしてるみたいな評価になってきた時が新聞にとっても不幸だし、神輿にとっても不幸だと思います。それを僕は心配しているんです。

星 その通りです。危険するようなことが隠蔽されている。いろいろ出てきたけれど、神輿の思想を構築してきた人たちは明治時代からの積み重ねがある

んですよね。

宮城 もちろんずっとあるわけですけども……

星 現代の神輿の思想はどういう人たちが代表しているか。知力のある新川明や、教祖的な川崎信一をあげることできる。しかし彼等はかなり特殊な立場だから……。亡くなった岡本恵徳も一緒だ。反国家・反権力、その日本に対する異質感は根強い。そこに生じる影響力も無視できない。

宮城 はい。

星 そういふ理論構築することに慣れた人たちの、論陣を張った人たちがちゃんとがっちり組んでるふうなので、一般人は疑問をもちながらも、あまり口出しできないでいる。現在は言うべきことが言えるところに来ているだろうか。

宮城 ずっとそうじゃないですか。つまり、例えば、その後どういう人たちが神輿で育ったかということです。どういふ分野で若い人が育って、どういふ分野で若い人が育ってないかというふう

に判したいとかではなくて、長い目で見て心配してるのは、オオカミ少年のような気がするからです。もうずっと「オオカミが来たぞー」と言ってるわけですよ。一万というのは要は大げさに言ってるわけですよ。オオカミが来たぞー、来たぞー」と言ってる村人は「大変だ」と言ってる集まってるんですけど、いざその県民が結集して何かやらないといかない時にはもう誰も集まらなくなるんじゃないか。今、あまりにも小さなところか、あまり本質でないところではないか、あまり大事な事にして、それで動員できているというので味しめちゃって、そのうちに、また神輿の新聞が小さなことを大騒ぎしてるみたいな評価になってきた時が新聞にとっても不幸だし、神輿にとっても不幸だと思います。それを僕は心配しているんです。

星 その通りです。危険するようなことが隠蔽されている。いろいろ出てきたけれど、神輿の思想を構築してきた人たちは明治時代からの積み重ねがある

掘に突っていましたね。

宮城 NHKのテレビでもかなり好意的に取り上げていましたから。

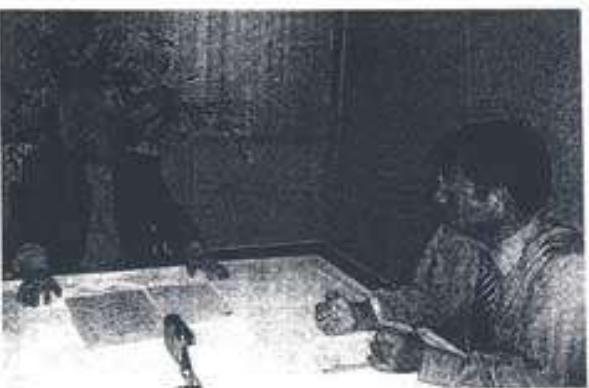
集団自決問題から派生する問題

星 集団自決問題を振り返ってみて、名称はかくあるべきだとか、陳腐な議論はくどくどあったけど、それを反復帰論と関連させて分析してみませんか。

宮城 集団自決問題に関しては、ちょうど最初に曾野綾子さんが本を書いた時に学生だったんですけども、その時にいろいろ他の本も読んで、自分なりに考えました。その時に足を置く位置はもちろん神輿側にあつたんですけど、本土から来た偉い作家がなんで神輿を引っかき回すんだと思つて、反論してやろうと思つて本を読みました。ところが全く反論ができなくて、これは負けたなと思つたんです。

星 実は四〇年ほど前に、私は神輿帳の聞き書きをしたとき、米軍が四月一日

に上陸した地点から南部一帯をすつと調査したんですよ。区長の家に数人の戦争体験者を集めて、証言を聞いたわけです。その中には本場にウチナンチュを助けた日本兵もいたんですよ。勿論、住民を死に追いやった日本兵もいたが、日本兵



の誘導で命拾いした話もあった。それもテープ起こしてるわけだから、それらをそのまま文章化した。戦争とはこういうものだ心を痛めながら、資料編集所に文章化したものを提出した。一週間ほどして、当時、果敢員だった安仁屋政昭が尋ねてきた。まだ彼は名高正八郎の下で働く職員だったけど、私のところに来て、「なんで日本兵の善行をもっともらしく書くのか。あんなのは必要ないよ」と、私に忠告してきたんです。「いや、あれは僕一人じゃなくて名高正八郎も一緒に録音取ったものだ、ありのままのものだから、そんなふうに言われる筋合いはない」と言い返して喧嘩別れになった。そういうことと関連して私は四〇年前に個人的に慶良間を調べてみた。そして、どうもこれは隊長命令はないという結論がはっきり出てきた。自分で調べてみたことを新聞のコラムに書いた記憶もある。それに対し少し反発もあったが、しかしその当時はそんなに騒がなかったところが七、八年前から、集団自決で神

輿本島でも、家族だけとか、少人数の集団自決がところどころであったことも判明した。読谷のチビチリガマとシムクガマの対照的な例でも直接革命とは関係ないことが分かる。だから日本軍が住民に命令を下すことによって、自決したというよりは、戦場のパニック状態と戦争に参加している日本人意識が行動を左右したと思う。裁判では沖縄住民をどうみていたのか。現在の目と感覚ではなく、当時の眼で見なければならぬのに。公平に裁判が終わった時点ではっきりしてくるはずですよ。最高裁の結論は、軍の命令相当の状況はあったと、しかし証明はできないというような言い方で締めくくられている。でも、本当はなかったらうと私は思っています。

実際に取寄せた中で、「母の死体を見て、なんで私は母親のように死にきれなかったかと、悔しさを泣いた」という人がいた。だから玉神は非常に複雑なんです。そのことは無視できませんよ。

宮城 今おっしゃったように、いろんな事例があったと思うんです。なのにどうしてそんなに単純化したいのかなというのが、一番疑問なんです。あった、なかったみたいなの、全部あれは命令だと、あるいは命令に準ずるものだったというふうに、なんで単純化したいのかって、そんなに人間って単純じゃないし、ましてやああいう戦争のときに、いろんな人のいろんな行動があったというのが、むしろ前提になるはずですよ。

星 そこにはイデオロギーの対立があるんじゃないですか。沖縄の両新聞が左翼であることは広く知られているけれど、最近ではあらゆるキャンペーンを張ってメディアが政府を動かしている。

宮城 それで、八〇年頃の曾野綾子さんが出てきたとか、論争があったときに

は、例えばこういう議論ができたんです。もし命令がなくても自決したとしたら、それはもつと怖いねって議論が。星 そこで注意すべきことは、六十余年前の戦時中の軍国主義と、平和な日本の現在とを分離して考えなければいけないでしょう。国のために自主的に死んだ人たちのことを、現在の発想で、一方的に強制で犠牲になったと決め付けると、こじつけになるように思う。

宮城 複雑ですよ。星 軍関係、村関係、住民の立場がそれぞれ異なる。それでも当時の当事者たちは、時代の国家方針を信じていた。当時の、校長が御真影を抱えて戦場を命がけで逃げ回る時代ですよ。本当に国のために死にたいという人たちがいたことを忘れてはならないと思います。ある種の人たちの発想はそれを否定している。

宮城 はい、そうです。例えば、死に対する感覚というのが僕らと全く違いますよね。そういう想像力も働かせないで、今の価値基準で善悪を決めようとする。

その今の空気が僕はとつても嫌というか怖いんですよ。八〇年代までは、当時の教育の恐ろしさから、共同体がもつ同調圧力、そして当時の人々の生死観まで、いわゆる戦争の恐ろしさの本質はどこにあるのかという議論ができたのに、今は、命令の有無だけで、議論ではなく政治的駆け引きになってしまった。

星 それと沖縄の今の状況は、圧倒的に新聞が沖縄の思想を掌握しているような状況です。そういうふうを受け取れる部分がある。しかし本当は革新的な発言や行動が全てではないと、むしろ心の中では違うんじゃないかという人たちが結構いるんですよ。

宮城 ちょうど今、宜野湾で対談しているのですが、宜野湾市長選の結果に表れちゃったんじゃないですか。

星 あれはね、九〇〇という差がでたのは、伊波の人氣が落ちたのが大きな原因だろうが、自衛隊からの票集めで摘発されて、逆に同情票が集まったという穿った話もある。



宮城 真の真みために。

星 選挙というのは、はっきり結果が出ますからね。きつと新人の彼は惨めに負けるだろうと、せめて一票、入れてあげようというふうな、そういう人情が左右したという解釈があるんですがどうか。

宮城 神護の人はそういうところありますからね。判官墨殿というが、それがかなり強いですよ神護の人は。

星 なぜ神護はこんなに教科書問題にこだわるのか。もちろんそれは教育という大事なことが近い将来に影響するわけだけど、子どもたちのこれからの進路な

どろんな自由なる発想で育ってほしいわけだから、あまり型にはめるようなことはよくないと思うんだけど、八重山の事件、報道ではかなり混乱しているように読む気にもなれない。現在の八重山で起こっている教科書問題をもう少し分かりやすく分析してみてください。

宮城 教科書の採択の方法が非常にマナー化していたというが、きちんとした手続きをとられていない部分もあった。それを石垣の教育長がちゃんとやろうとしたわけですよ。ただ、そこでもいろいろしがらみもあって、ああいうかたちでゴチャゴチャになってしまったというのが私の基本的理解です。玉津教育長は以前は八重山高校の校長先生、その前が伊良部高校の校長先生で、すごくいい先生と評判の先生です。本当に生徒を思いやるいい先生なんです。ただ、まさか彼がいい先生だとは神護の新聞しか読んでいない人は信じられないでしょう。悪魔みたいに書かれますから。あの問題は単に手続きの問題です。ところが、神護の

マスコミがイデオロギー闘争にしてしまつて、あんな大騒ぎにしたというのが僕の認識なんですけれど、そんな騒ぐことかかって思うんですけど、本当は、

星 そう、イデオロギー闘争は、神護の社会状況のガンですね。新聞の報道ではどうやらヒッチャカメツチャカ、市長も教育長も彼らは揉みくちやにされてるなというふうな印象を受けています。どうなんですかね。

宮城 本当にほとんど人格攻撃ですよ。しかも半端な量ではなく次から次へと、どうも私は印象操作のような気がします。知ってる人はみんないい先生と言いますよ。なのになぜこうなつてしまつたのか。誰かを悪者にして自分たちのイデオロギーの正当性を主張するというのが嫌ですね。

玉津教育長の教科書選定に関する言いは、要は石垣と神護本島では事情が違うということですよ。神護は基地の問題が確かあるかもしれないけれども、石垣には神護本島のような大きな米軍基地は

ないし、米兵が歩いてるわけでもない。それより、石垣は尖閣を抱えた国境の島だというのがより大きな問題だから、それをより詳しく書いた方の教科書を選んだということ、かなり筋は通つてるんです。

星 国や、政府の方は……

宮城 政府は別に、それをなんとも……星 任せてるわけ。

宮城 間違ひでもなんとも……文科省は、要するに玉津教育長例を正しいとしてるわけですよ。これは結論が出てるんだけど、神護の新聞を読むとまだ決着ついてないようにしか読めない。けれど、もうとっくに決着ついていることで、そのまま竹富町の方が有償になるという。

星 それで一応は一段落したわけですか。

宮城 一段落はしてないと思いますけれど、まだ騒ぐと思います。運動としてはまだまだあるでしょうけれど、手続き上は終わってますよ。

星 今後残す問題というのはあるわけですか。

宮城 はい。では何だったのかということですよ。教科書騒動が、集団自決関連の教科書問題で県民大会までやったという時も、そうですけど、これらは、政治の力で教科書を書き換えさせるといふ運動ですよ。そのこと自体の是非は誰も問わないのかというところが非常に不思議なんです。本当にそれでいいのかと。ある日、いわゆる神護側の主張と全く違った世論が日本中に巻き起こつたら、負けるということですよ。本当にそれでいいのか。今は何となく勝つてるからいいですけど、教科書を政治の道具にしてるような感じがして、本当の意味での子どもたちの教育というところから遠くかけ離れてしまつたという印象を私はもっています。

もう一つ、教科書の記述ってそんなに影響力あるのかなという疑問もあるんですけども、みんな本当に教科書に書いてるのを鵜呑みにしてきたのかなって、

先生の授業のやり方次第でどうにでもなつてしまふというか。

星 ある程度は影響ありますよ。反面教師的な現象も起きるかもしれない。

宮城 ある程度は……、もちろんありますけれど、そんなちよつとしたニュアンスの違いで……

星 そうすると、神護の教育界も一段落までいってないにしても、そんなに揉めるようなことではないでしょう。

宮城 もうないでしょうね。今後は、星 そこでアイデンティティの問題とジョイントさせながら、宮城さんの考えをまとめてみてはどうですか。

宮城 僕はこの一〇年ぐらいつつと思つてるのは、いろんな議論をしたいなということなんです。いろんな人、いろんな場で、いろんな議論をしたい。その中に全くイデオロギーの違う人がいてもいいし、結論違う人がいてもいいし、ただ、議論することによってお互いのレベルが向上していけばいいと思います。ここで言う議論とは、自分の視の優位性

を説くことでもなく、あいてをやっつけ
てしまうというものでもありません。
怒ったり感情的になったりせずに意見を
交換しあう。議論というよりむしろ「学
び合い」と言った方がいいかもしれませ
ん。甘いと言われるかもしれませんが、
沖縄を愛している者同士、可能だと思
います。ところが、逆に、さっきお話し
したように、七〇年代、八〇年代の神
の新聞紙上の方がまだ自由に議論を
していた。いろんな意見の人が結構、議論を
闘わせていました。時が経つにつれてど
んどん狭まっていく。異論を許さない
という空気がますます強くなっていくよ
うな気がします。それは別に神の新聞
だけでなく、いわゆる保守を自認する人
たちにも感じてしまいます。そこからな
んとかしないことには沖縄問題という
は解決の方向にはいかないのではないか
という。

があつてもよいと思う。
宮城 「反復論」みたいなのが最近ま
た注目されてきたというのは、それは揺
り戻しでもなんでもなくて、先ほど先生
もおっしゃったように世の中が豊かに
なってきたら、逆にそういうことを願
う余裕が出てきたのかなと私は思います。
そういう言い方すると反復論の人たち
に怒られると思いますが。
星 絞っていくと、やっぱり新聞の話
題性と影響力が問題でしょうね。神の
メディアがどのように処理していくかと
いうことにかかっている。若い記者は特
に左右されやすい。そういう人たちは流
し過ぎて同じようなことを繰り返す
ようではなんとも寂しいね。もっと大
きな捉え方をしてもらいたいのだが…
宮城 反対意見ばかり言う、すぐ
レッテル貼られますから、「戦争したい
人」っていうふうに、そうじゃなくて、
もっときちんと噛みかいて話をして聞
いてほしいという気持ちがありますね。
だから今年は思いきって本を出しました。

「沖縄道—沖縄問題の本質を考えるため
に—」という本ですが、おそらくあまり
相手にされないと思うので、ここで宣伝
させていただきます。(笑)。
星 もうだいたい言うべきことは出し
つくしたような気がします。
宮城 大体のところ、そうですね。
星 われわれの考え方や思想を、もっ
と充実させるためには、例えば弾力ある
思想としてしっかり持ちこたえて、自由
奔放な生活に見合ったエネルギーも必要
になつてくるような気がします。ともあ
れ、宮城先生の忌憚のないご意見を聞か
せて買って感謝しています。
宮城 いや、こちらこそ、どうもあり
がとうございました。私みたいな者に、
こういう機会を与えてくださり、とても
感謝しております。

二〇一二年二月十四日
フェスト・ネ文化村
小会議室にて収録

時事評論

県民侮蔑の「ゆすり」と「犯す」発言

福地 曠 昭

沖縄県民を侮蔑し、差別の暴言で日米の沖縄担当者が更迭
された。

メーア前米国防務省日本部長と田中前那覇防衛局長の発言で
県民は激怒している。

いま、また真部防衛局長が宜野湾市長選挙に介入し、更迭
が予想される。現在居止まっている。

本人たちはその発言は「正確でない」と否定し、公的の場
で説明がない。

そして県民の反発をおそれ、普天間基地の移設を言葉たく
みにあの手この手で権力をもって強引に押し進めているのだ。
謝罪や高官の発言からすると、県民はいづれ県内移設を承
認すると甘い考えを持っている。しかし、私たち県民は知事、
各市町村長はじめ各界は決してこの手に乗ってはいない。

裏目に違つてますます抗議の波紋が広がりがつある。そこ
で先ず、メーア氏の「ゆすり発言」を糾弾したい。
沖縄県民を差別、占領意識丸出しの発言は昨年十二月、米
国防務省内で大学生に講義したことが発端であった。
学生や指導教官の記録メモが新聞に公表された。本人の責
任は外交官といえない。「脅威を着た軍人」と評されたよう
に彼は沖縄領事に来る前は米国外務省で、防衛担当で、ベン
タゴン派遣の発言が多かった。

見逃せない差別発言内容は「沖縄の人はゆすりの名人、怒
け者でゴージャーズ作れない」となかなか物知り顔で学生を惹き
つけたかも知れない。

奥さんが日本人だし、四年間も沖縄総領事を務めているの
で、親しい交友関係があると思う。しかし、普天間市民から

●対談「神道思想が対応する現実問題」では、まず「反復論」が、四十年前ならいざ知らず、失礼だが現在では、果して論ずるに値するの疑問だ。特別企画の宮城能登と星雅彦の対談では、おおよそアイロニカルに応答を交わしている。

●何かの応援を得て、反復論を復活させ、異分子を逆襲、糾弾するかも……

●「時事評論」の五氏の論調は、それぞれの立場から真摯な発言をしている。左翼思想の中心的指導者である福地謙昭は「黒民侮辱の発言」として怒りをぶちまけている。それに対し、評論家の津島山武史は、この問題の裏に隠された、陰謀を暴露しながら反駁している。実在の人物を出して、この問題の欺瞞性を衝いている。

●どのような真剣さで、相手の理論の弱点を刺せるかが問題だが、伺いたいところだ。

●国旗・国歌の問題

日本の「日の丸」と「君が代」は、戦前の愛国心を打ち出した国の方針からであった。国民として国旗・国歌を否定するものは誰もないだろう。問題となったのは国旗・国歌の内容が戦前の天皇制国家の日の丸と君が代と同じだからだ。かつて全国の教育現場をまきこんだ民主教育が、管理教育かの大論争となった。そして、国は一九九九（平成十一）年八月十三日に国旗・国歌に関する法律を公布した。第一条 国旗は日章旗とする。第二条 国歌は君が代とする。但し、国旗・国歌の掲揚、斉唱に関しては、「それを強制するものではない」との付帯決議もあるが、おおよそ現在は無視されている。東京都の裁判問題、大阪市条例化がその例である。

問題は複雑だし、解決の道程はまだ遠いようである。

（野村朝常）

ろだし、その対峙には興味がつきない。

●ミアは外交官らしくないという見解がある。その差別発言をするイヤな奴だという人間性批判の声がかまびすしい。オフレコ報道のルール違反を指摘しながらも、水口義朗は琉球新報を擁護するような論調だ。また、政府をゆさぶる別の効用を見て喜んでいる風情でもある。

●神本太郎の新左翼研究は、さらにその先の続編を書いて欲しいし、期待させるストーリーの要素がある。神道の革新勢力の背後に、新左翼の変遷が作用していないとは断定できない。

●上原正徳が新報を裁判で訴えた動機には、彼の連載への封殺に対し、負けたくない気概はもとより、他面、新聞社の体質を変えたいという切ない願望があるからであろう。

（星 雅彦）

●本号の評論・論考はかなり充実している

るのではないだろうか。

●短歌論文では、比嘉美智子が和歌を日本文学の大動脈として捉え、琉球文学をその中に位置づける。仲程昌徳は、その比嘉の歌集「宇流麻の海」を材料にとりわけ優れたというわけではない三首を引き合いに明治・大正期の神道の短詩形表現を分析している。永吉は伊藤左千代に引き寄せられ縁の地を訪ねる。

●「論より証拠」のパートでは、括りが不明ではあるが、久田のヘミングウェイの事績を追って米国最南端のキーウエストを訪ねる論考、極めて難解な浜川の上原生男論、ましこ・ひでのりの地政学要衝説批判を集める。

●ユニーク論文パートでは、妹尾の狗奴国検証記、上原のウチナー口の謎の解明、大城の祖孫論「大城屋」を納めている。

●時事評論「ゆすり兎す」の五氏の論文は刺激的で論争的で物議を醸しそうな勢いである。こ・これは怖いよ。

（大城宣武）

〔編集委員〕

星 雅彦・畑花 謙二
久田友明・大城 宣武
野村朝常・富岡 タケ子
仲西 正子・宮城 泰子

うらそえ文藝 第17号

定価 一、〇〇〇円

発行 二〇一二年 平成二十四年五月十五日

編集人 星 雅彦

発行人 畑花 謙二

発行所 沖縄県文化協会事務局

〒901-2322 沖縄県豊後三丁目四〇番六号

〒901-2322 沖縄県豊後三丁目四〇番六号

電話・FAX 〇九〇-八七七一四五五三

印刷所 沖縄コロニー印刷

〒901-2322 沖縄県豊後三丁目四〇番六号

TEL 〇九〇-八七七一四五五三

FAX 〇九〇-八七七一四五六